

九州北部と韓国南部交流

ビザなし渡航拡大提案

海底トンネルの調査も

で保世佐
開ホシ

「日韓南西部地域経済圏の開発と協力」をテーマに二日、佐世保市のハウス・シンポジウムが開かれた。両国の国会議員や経済人らで組織している日韓、韓日

各協力委員会の主催で四回目。今回で、一応の区切りを付けようと、初めて地方自治体の長崎県も主催団体に加え、韓国南部と九州北部地域の経済圏拡大を目的に、活発な意見交換を行っ

た。シンポジウムでは、現在、両国間では済州島しか認められていないビザなし渡航を対馬や韓国全羅南道、慶尚南道、九州全域など広範囲に拡大することを、長崎県一さくら総合研究所副社長ら数人が提案した。李圭孝弁護士は日韓を結ぶ海底トンネルの可能

性調査を行うために、掘削技術や地質、経済・社会効果を探る両国の組織を早期に設置するよう訴えた。李聖根・培材大学総長は、韓国南部と九州北部地域交流活発化を目的に、両地域にそれぞれ窓口になる常設の協力交流センターを設置、航空ネットワークも一層整備して一日行動圏にすることを提案した。大島良三・JR九州船舶事業部長は今年一月―三月の日本から韓国への渡航者が一〇％以上落ち込んでいることに触れ「韓国はソウルや慶州、釜山以外の観光地、コースをもっと整備、宣伝する必要がある」と指摘した。

張炳泰・光州・全南21世紀発展協議会会長は九州で活発な動きをしている異業種交流グループの韓日間交流や首都圏への一極集中の反面、人口流出で停滞が続ける両国の南西部地域が地域開発政策やこれまでの経験とを交流し合って課題を解決することの利点を強調した。

最後は李大淳前通信部長官が「シンポの狙いの一つだった地域交流、協力の枠組みについての考え方が出来た。今後はどう具体化するかが肝心。何らかの形の窓口をつくりたい」と締めくくった。

ハウス・シンポジウムで開かれた日韓・韓日合同シンポジウム

海底トンネルの可能

性調査を行うために、掘削技術や地質、経済・社会効果を探る両国の組織を早期に設置するよう訴えた。

李聖根・培材大学総長は、韓国南部と九州北部地域交流活発化を目的に、両地域にそれぞれ窓口になる常設の協力交流センターを設置、航空ネットワークも一層整備して一日行動圏にすることを提案した。

大島良三・JR九州船舶事業部長は今年一月―三月の日本から韓国への渡航者が一〇％以上落ち込んでいることに触れ「韓国はソウルや慶州、釜山以外の観光地、コースをもっと整備、宣伝する必要がある」と指摘した。

最後は李大淳前通信部長官が「シンポの狙いの一つだった地域交流、協力の枠組みについての考え方が出来た。今後はどう具体化するかが肝心。何らかの形の窓口をつくりたい」と締めくくった。